第４８回　目黒区世論調査

令和８年１１月

目黒区

は　じ　め　に

目黒区は、まちの将来像を「さくら咲き　心地よいまち　ずっと　めぐろ」と定め、2040年頃に向けた長期的な目標のもと、区政を運営しています。

誰一人取り残されることなく、安心して生き生きと自分らしく暮らし続けられる地域社会にするためには、区民の皆さまの多様なご意見・ご要望を的確に把握し、施策に反映していくことが大変重要であると考えております。

「目黒区世論調査」は、区民の皆さまからのご意見・ご要望を区政に反映させ、適切な区政運営を推進していくため、現在は 3 年に一度実施しているもので、1969（昭和 44）年から開始し、今回で 48 回目となりました。

今回の調査では、定住性や暮らし向きなど、経年変化を把握するための設問だけでなく、地域活動、スポーツ、多文化共生、区の手続きのデジタル化など、暮らしの豊かさに関する設問を新たに設定いたしました。

調査結果につきましては、今後の区政運営に有効に活用してまいります。皆さまにおかれましても、この調査結果を一つのきっかけとして、区政に一層の関心をお持ちいただけると幸いです。

最後になりますが、本調査にご協力いただきました区民の皆さまに、心から御礼を申し上げます。

2026（令和8）年11月

目黒区長　青　木　英　二

目　次

第１章　調査の概要

１　調査の目的 3

２　調査の内容 3

３　調査の設計 3

４　回収結果 5

５　この報告書の見方 6

６　回答者属性 7

第２章　調査結果

１　目黒区での居住 15

（１）居住年数 15
（２）現住所直前の居住場所 19
（３）居住理由 21
（４）定住・転出意向 26
（５）転出意向理由 31
（６）今後の住環境で重視すること 32

２　暮らし向き・仕事 34

（１）暮らし向きの変化 34
（２）暮らし向きが苦しくなった理由 38

３　防災 41

（１）災害時に備えて行っていること 41
（２）在宅避難の認知度 45
（３）防災訓練・防災イベントへの参加経験の有無 48
（４）防災訓練・防災イベントに参加しない理由 53
（５）災害情報収集の手段 55
（６）耐震化助成の認知度 57
（７）耐震化の必要性と意向 60
（８）耐震化を行わない理由 63

４　地域活動・コミュニティ 66

（１）町会・自治会の加入状況 66
（２）町会・自治会に加入していない理由 69
（３）町会・自治会や住区住民会議が行う地域活動の認知度 70
（４）地域活動の参加状況 75
（５）参加した地域活動 78

5　運動・スポーツ 79
（1）障害者手帳の保有有無 79
（2）運動やスポーツの実施状況 80
（3）現在行っている運動・スポーツ 85
（4）スポーツや運動を行わなかった、または実施頻度が低い理由 89
（5）スポーツを通じた健康の実感 92
（6）スポーツを通じたつながりの実感 94
（7）スポーツを通じた幸福感の実感 96
（8）スポーツ観戦の頻度 98
（9）スポーツ観戦の方法 102
（10）スポーツを支える活動の参加頻度 106
（11）スポーツを支える活動の内容 110
6　多文化共生 113
（1）多様性を認め合う地域社会の実現の重要度 113
（2）現地での芸術・文化の鑑賞経験の有無 115
（3）現地での芸術・文化の実践経験の有無 118
7　福祉・子育て 121
（1）安心して介護や育児をするために必要な支援 121
8　都市計画・街づくり 123
（1）生物多様性の認知度 123
（2）みどりのまちづくりや生物多様性保全活動への取組状況 125
（3）みどりのまちづくりのために協力できること、やってみたいこと 127
（4）公園の魅力向上のために必要だと思うこと 129
（5）目黒区の地域交通 132
（6）外出時の交通手段に不便さを感じていること 134
9　地球温暖化対策 136
（1）地球温暖化防止のために優先して行いたいこと 136
（2）地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと 138
10　生涯学習 141
（1）生涯学習活動への参加状況 141
（2）参加した生涯学習活動 144
（3）生涯学習活動をしない理由 146
（4）生涯学習の推進のために必要なこと 148
（5）知識・経験の地域還元 150
（6）図書館の利用状況 153
（7）利用図書館 156
（8）図書館の利用頻度 158
（9）今後に期待する図書館サービス 160
（10）充実を期待する図書資料 162

１１　情報推進 163
（１）区の手続きや相談のデジタル化による便利度 163
（２）区の DX の取組でより充実してほしいサービス 165
（３）オンライン化を希望する行政手続 167
１２　広報・ウェブサイト 169
（１）区政情報の入手先 169
（２）「めぐろ区報」紙面の満足度 171
（３）「めぐろ区報」の不満に感じること 173
（４）「めぐろ区報」全戸配布の評価 174
（５）目黒区公式ウェブサイトの満足度 176
（６）目黒区公式ウェブサイトの改善してほしい点 178
（７）目黒区公式 LINE の登録状況 179
（８）目黒区公式 LINE の満足度 181
（９）目黒区公式 LINE を登録しない理由 183
（10）目黒区公式 LINE をブロックした理由 185
（11）目黒区公式 LINE に期待すること 186
１３　自転車の安全利用 188
（１）自転車の利用状況 188
（２）自転車の安全利用への意識 190
（３）自転車保険の加入状況 192
（４）自転車利用時のヘルメット着用状況 194
（５）ヘルメットを着用しない理由 196
１４　区の政策など 198
（１）良いと思う施策・悪いと思う施策 198
（２）優先して行ってほしい施策 203
（３）区政に区民の意見が反映されているか 208
（４）区政への意見 210

資料編

調査票 215

第１章　調査の概要

1　調査の目的

本調査は、区民の生活実態の把握および区政の各分野について区民の意識、意向、意見や要望等を把握し、これを今後の区政に反映させることを目的としたものである。

2　調査の内容

本調査は、以下の調査項目について行った。

1．目黒区での居住
2．暮らし向き・仕事
3．防災
4．地域活動・コミュニティ
5．運動・スポーツ
6．多文化共生
7．福祉・子育て
8．都市計画・街づくり
9．地球温暖化対策
10．生涯学習
11．情報推進
12．広報・ウェブサイト
13．自転車の安全利用
14．区の政策など

3　調査の設計

1. 調査の対象：目黒区在住の満18歳以上の個人
2. 標　本　数：3,000人
3. 抽 出 台 帳：目黒区住民基本台帳
4. 抽 出 方 法：層化無作為抽出
5. 調 査 方 法：郵送調査法（回答はオンラインを併用）
6. 調 査 期 間：令和８年６月８日～６月３０日

図３－１　地域区分

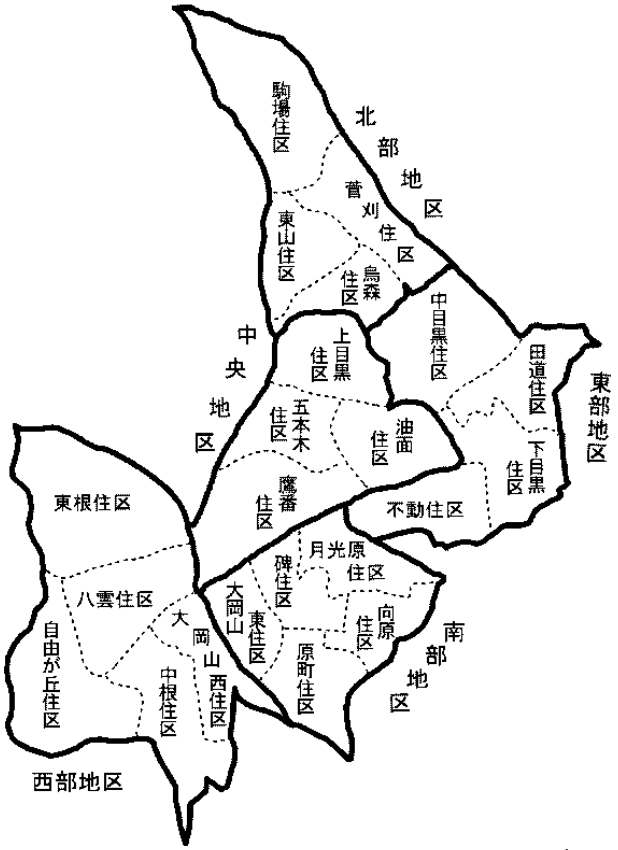


表３－１　地域・住区・町丁目対応表

地区	住区	区域
北部	駒場住区	駒場1～4丁目、大橋2丁目の一部
	菅刈住区	青葉台1～4丁目、大橋1丁目、上目黒1丁目の一部
	東山住区	東山1丁目の一部、東山2・3丁目、上目黒5丁目の一部、大橋2丁目の一部
	烏森住区	東山1丁目の一部、上目黒2・3・5丁目の各一部
東部	中目黒住区	上目黒1～3丁目の各一部、中目黒1～3丁目、中目黒4・5丁目の各一部
	田道住区	三田1・2丁目、目黒1丁目、目黒2・3丁目の各一部、中目黒4丁目の一部
	下目黒住区	目黒2・3丁目の各一部、下目黒1～3丁目
	不動住区	下目黒4～6丁目、目黒本町1丁目
中央	上目黒住区	上目黒4丁目、中目黒5丁目の一部、五本木1丁目、祐天寺1・2丁目
	油面住区	中目黒5丁目の一部、目黒4丁目、中町1丁目、中町2丁目の一部
	五本木住区	五本木2・3丁目、中央町2丁目、中町2丁目の一部
	鷹番住区	中央町1丁目、碑文谷5・6丁目、鷹番1～3丁目
南部	月光原住区	目黒本町2・4丁目、目黒本町3・5・6丁目の各一部
	向原住区	目黒本町3・5・6丁目の各一部、原町1丁目
	碑住区	碑文谷1・2丁目、目黒本町6丁目の一部
	原町住区	原町2丁目、洗足1・2丁目、南1丁目
	大岡山東住区	南2丁目、碑文谷3・4丁目
西部	大岡山西住区	南3丁目、平町1丁目、平町2丁目の一部、大岡山1丁目の一部
	中根住区	大岡山1丁目の一部、大岡山2丁目、緑が丘1・3丁目、中根2丁目、平町2丁目の一部
	自由が丘住区	緑が丘2丁目、自由が丘1～3丁目、八雲3丁目、中根1丁目の一部
	八雲住区	柿の木坂1丁目、八雲1・2丁目、中根1丁目の一部
	東根住区	柿の木坂2・3丁目、八雲4・5丁目、東が丘1・2丁目

4　回収結果

1. 標　本　数：3,000標本
2. 回 収 総 数：1,250票　　回　収　率：41.7%
   （郵送：545票、オンライン：705票）
3. 有効回収数：1,248票　　有効回収率：41.6%
   （郵送：543票、オンライン：705票）

4．地域別回収結果

表4－1　地域別回収結果

地区名称	満18歳以上人口		世論調査対象者数		有効回収数		
	実数（人）	地域別構成比（%）	対象者数（人）	地域別構成比（%）	回収数	地域別構成比（%）	回収率（%）
北部地区	40,538	16.4	489	16.3	177	14.2	36.2
東部地区	50,825	20.5	614	20.5	254	20.4	41.4
中央地区	49,858	20.2	606	20.2	245	19.6	40.4
南部地区	44,269	17.9	536	17.9	244	19.6	45.5
西部地区	61,854	25.0	755	25.2	322	25.8	42.6
合　計	247,344	100.0	3,000	100.0	1,248	100.0	41.6

（注）令和８年５月25日現在の人口と抽出対象数に基づく

5　この報告書の見方

・本文、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数を指す。
・百分率（%）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。また、複数回答の設問では、比率の合計は、100.0%を超える。
・本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
・クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
・クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数（n）が30未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていないことがある。
・世論調査は標本調査であるため、統計数値と真の値（母集団を全数調査すれば得られるはずの数値）との間に標本誤差が生じることがある。無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を95%とした場合）は次の式により求められる。

$$b = \pm 1.96\sqrt{\frac{N-n}{N-1}\times\frac{p(1-p)}{n}}$$

N＝母集団（目黒区の満18歳以上人口）
n＝比率算出の基数（回答者数）
p＝回答の比率

Nはｎより非常に大きいため、$\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、「標本誤差早見表」（表５－１）のとおり求められる。

表５－１　標本誤差早見表（信頼度95%）

回答の比率(p) ／ 基数(n)	10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
1,248	± 1.7%	± 2.2%	± 2.5%	± 2.7%	± 2.8%
1,200	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
1,100	± 1.8%	± 2.4%	± 2.7%	± 2.9%	± 3.0%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%
200	± 4.2%	± 5.5%	± 6.4%	± 6.8%	± 6.9%
100	± 5.9%	± 7.8%	± 9.0%	± 9.6%	± 9.8%

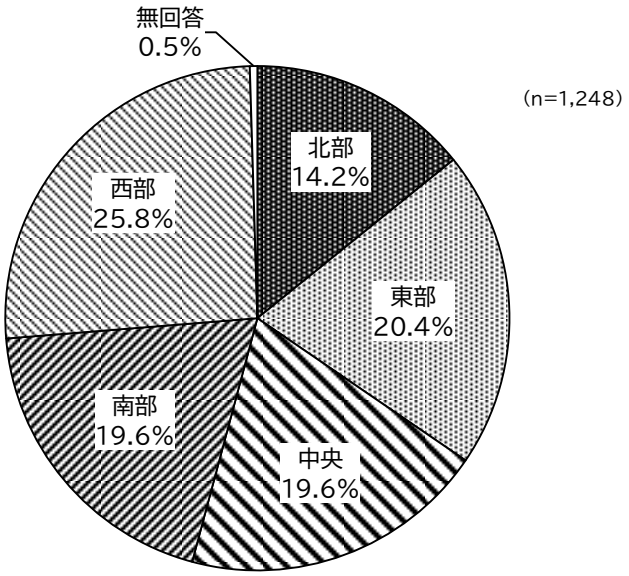
例えば、ある質問で、回答者数（n）が1,248、そのうち30%の人が回答した選択肢があった場合、標本誤差は±2.5%となり、標本誤差を補正すると、回答の比率は27.5%～32.5%の範囲にあることが95%の信頼度でいえることになる。

6　回答者属性

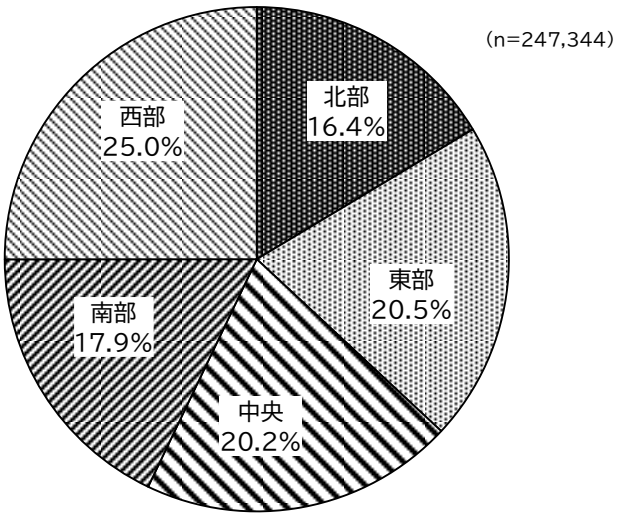
①居住地域

「西部」が25.8%で最も高く、次いで「東部（20.4%）」、「中央（19.6%）」、「南部（19.6%）」となっている。

図６－１　居住地域（全体）



（参考）住民基本台帳における居住地区の割合（満18歳以上）
令和８年５月25日現在



②性別

「女性」が59.9%、「男性」が38.8%となっている。

図６－２　性別（全体）

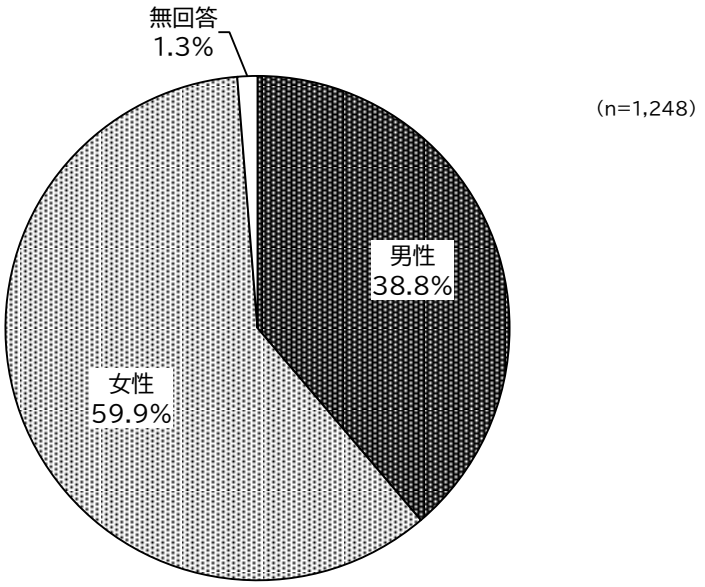
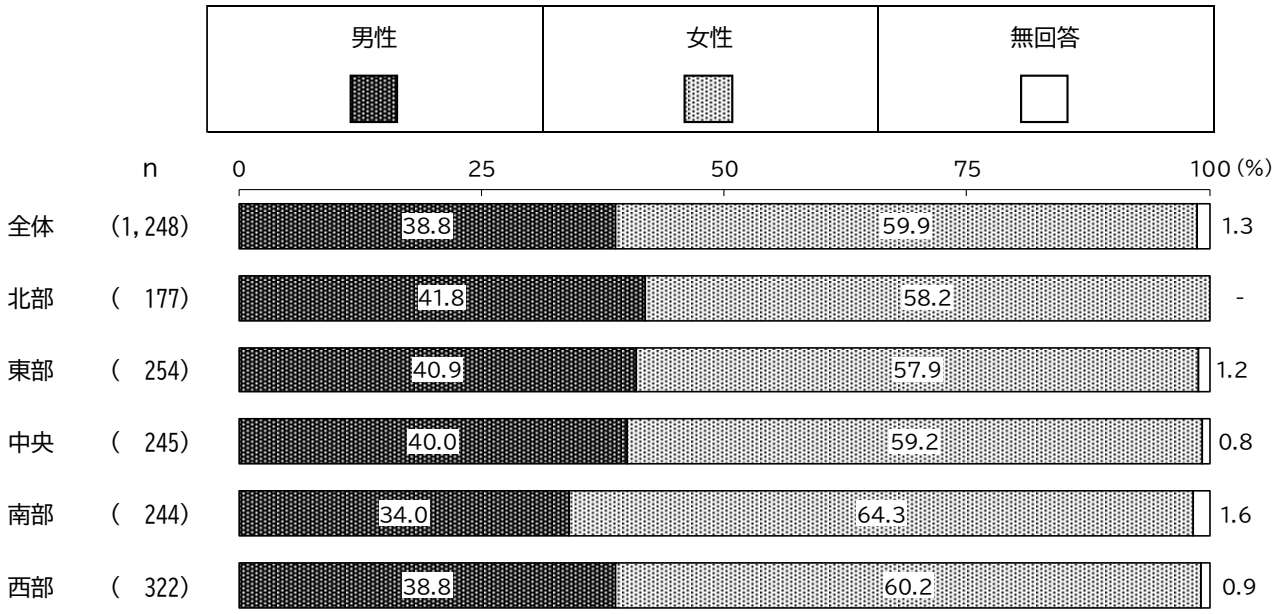


図６－３　性別（地区別）



③年齢（満年齢）

「50代」が20.5%で最も高く、次いで「60代（16.0%）」、「40代（15.8%）」となっている。

図６－４　年齢（全体）

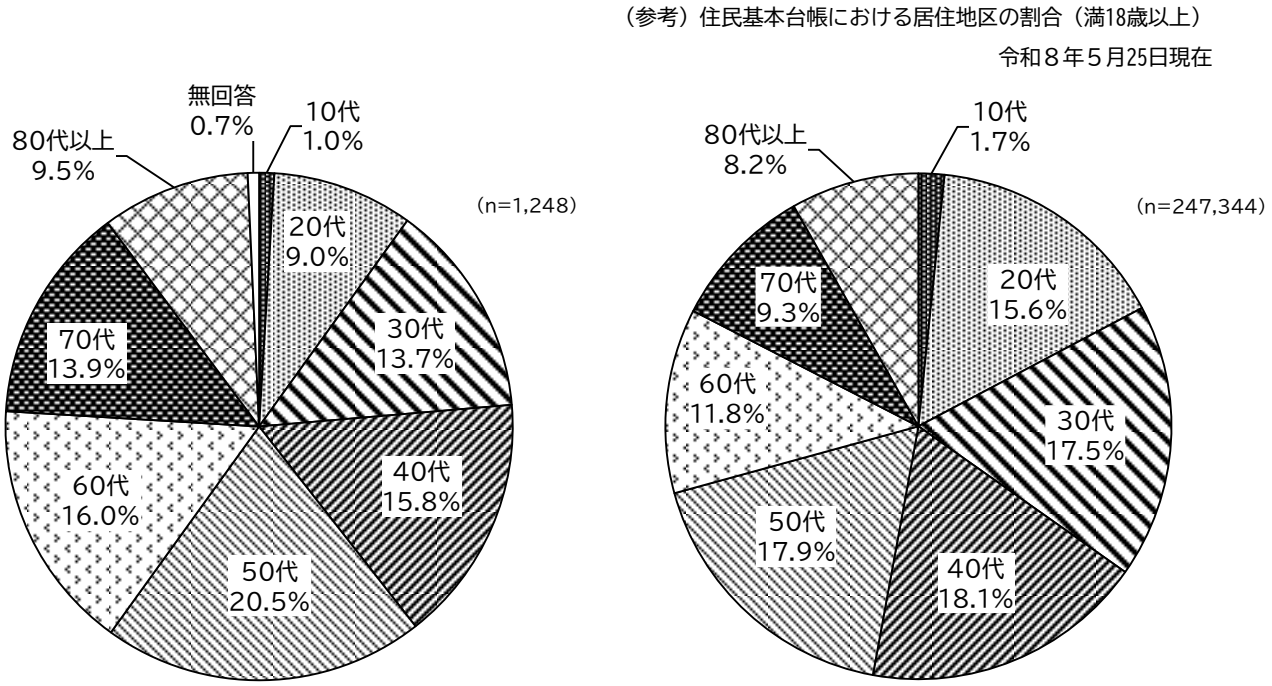
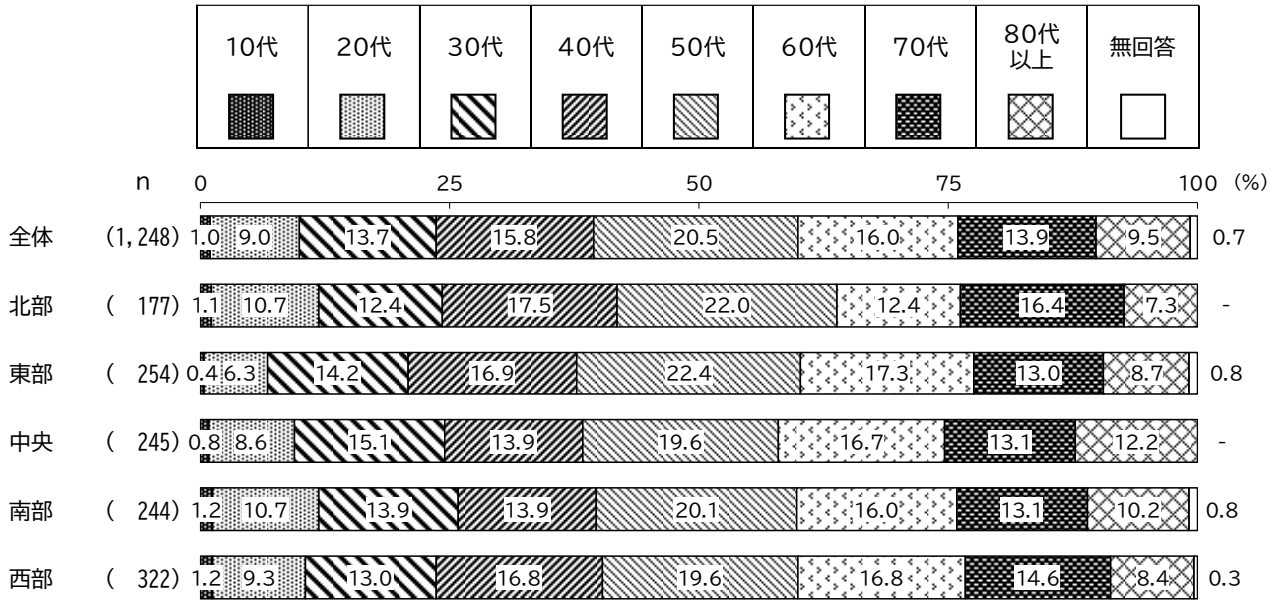


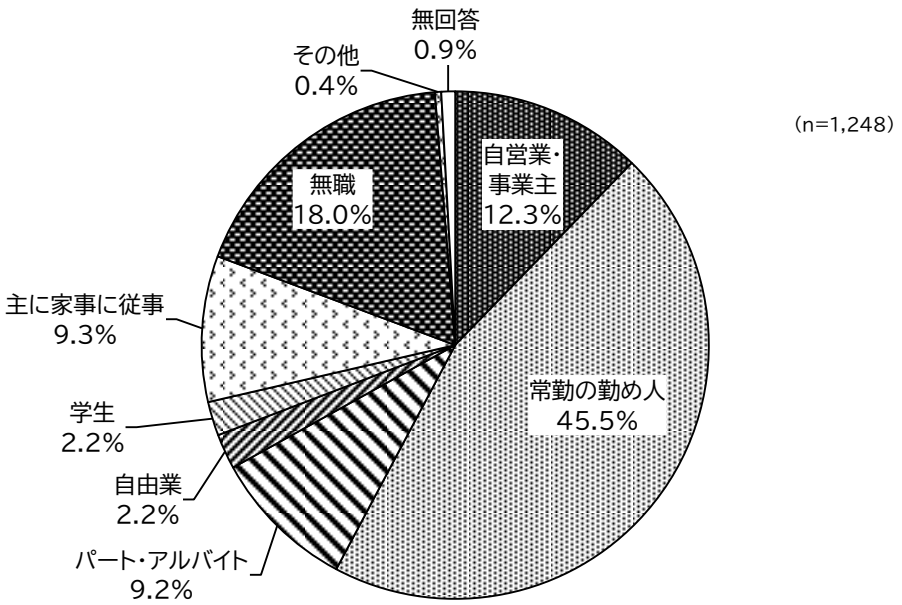
図６－５　年齢（地区別）



④職業

「常勤の勤め人」が45.5%で最も高く、次いで「無職（18.0%）」、「自営業・事業主（12.3%）」となっている。

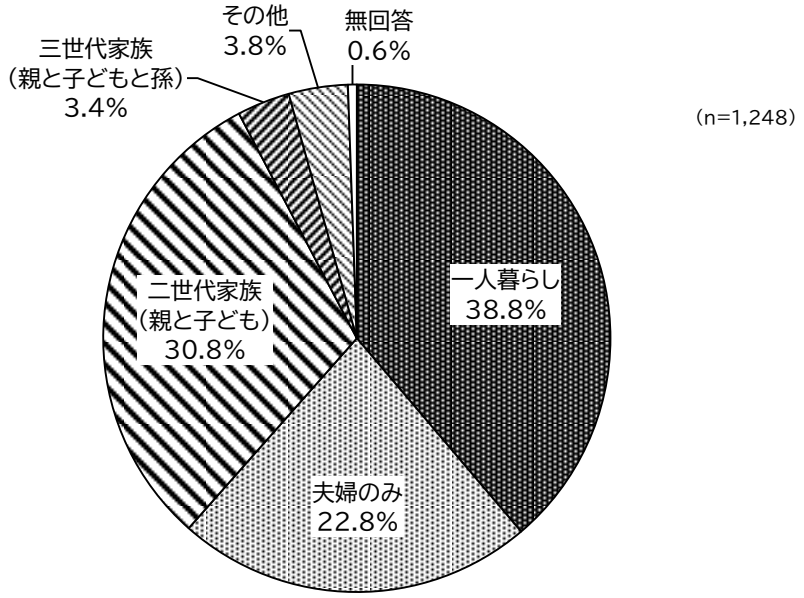
図６－６　職業（全体）



⑤世帯構成

「一人暮らし」が38.8%で最も高く、次いで「二世帯家族（30.8%）」、「夫婦のみ（22.8%）」となっている。

図６－７　世帯構成（全体）



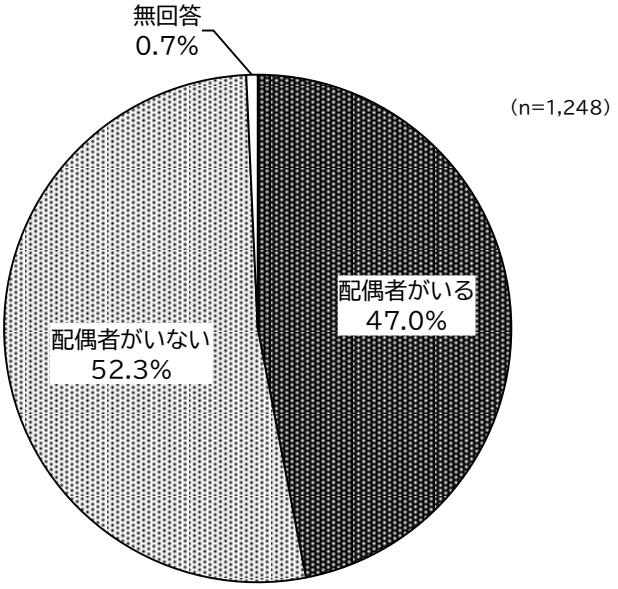
⑥配偶者

「配偶者がいる」が47.0%、「配偶者がいない」が52.3%となっている。

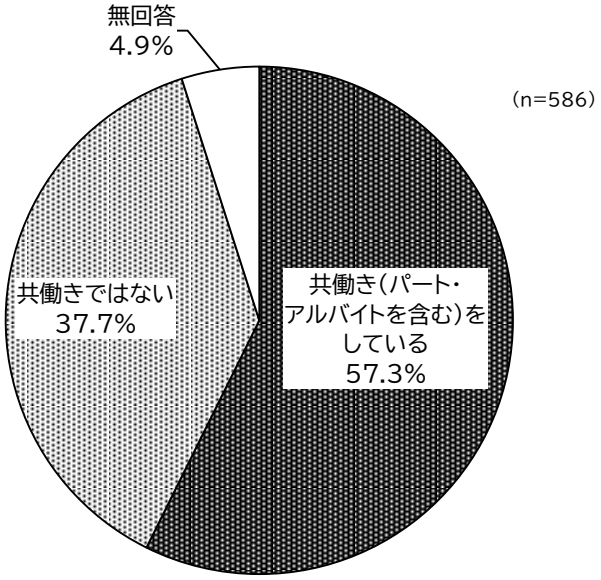
また、「配偶者がいる」と回答した人のうち、「共働きをしている」が57.3%、「共働きではない」が37.7%となっている。

図６－８　配偶者（全体）

<配偶者の有無>



<共働き状況>

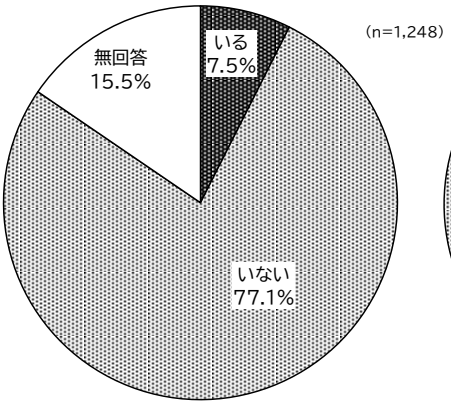


⑦家族構成

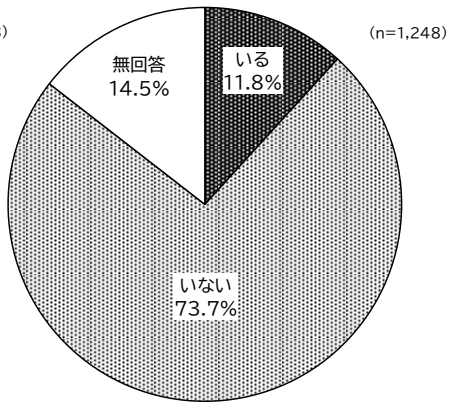
家族に就学前の乳幼児、小・中学生、65歳以上の方（本人を含む）がいるかどうか聞いたところ、就学前乳幼児がいる割合は7.5%、小・中学生がいる割合は11.8%、65歳以上の方がいる割合41.1%となっている。

図６－９　家族構成（全体）

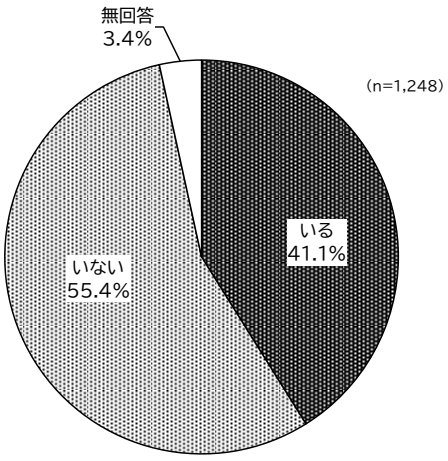
<就学前の乳幼児>



<小・中学生>



<65歳以上の方>



⑧住宅の種類

「一戸建持家」が32.1%で最も高く、次いで「賃貸の鉄筋アパート・マンション（29.0%）」、「分譲マンション（22.0%）」となっている。

図６－10　住宅の種類（全体）

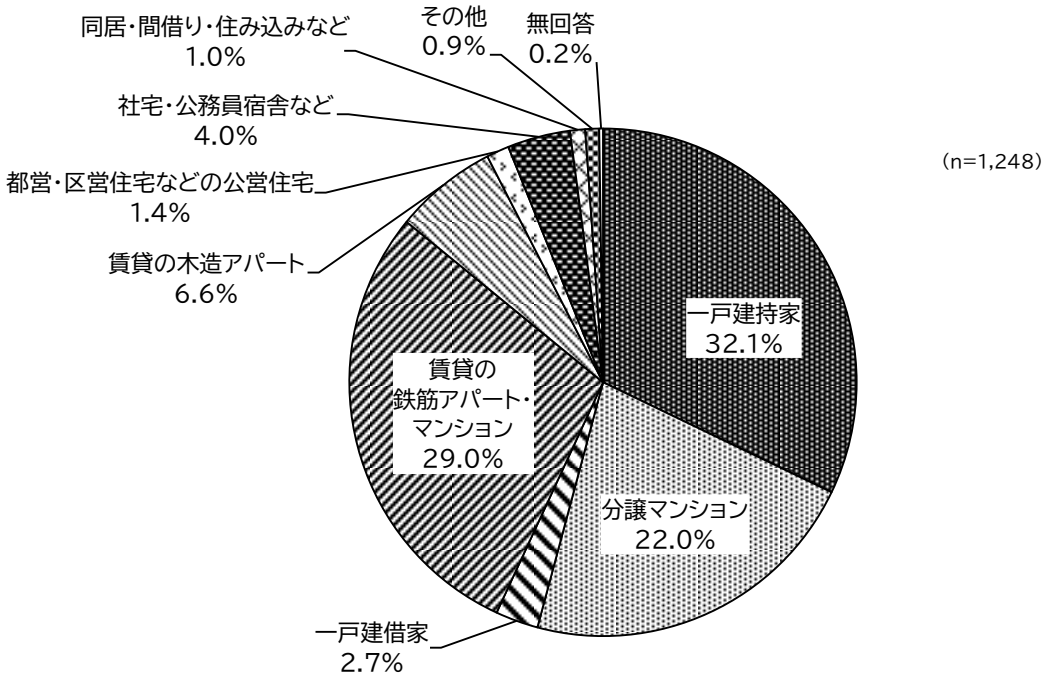


図６－11　住宅の種類（地区別）

